活動報告書

2025年度

NPO法人 いるか

次第

1　活動概要
2　2025年度実績
3　課題
4　利用者の声
5　活動風景

活動概要

フードバンクの直接支援と間接支援

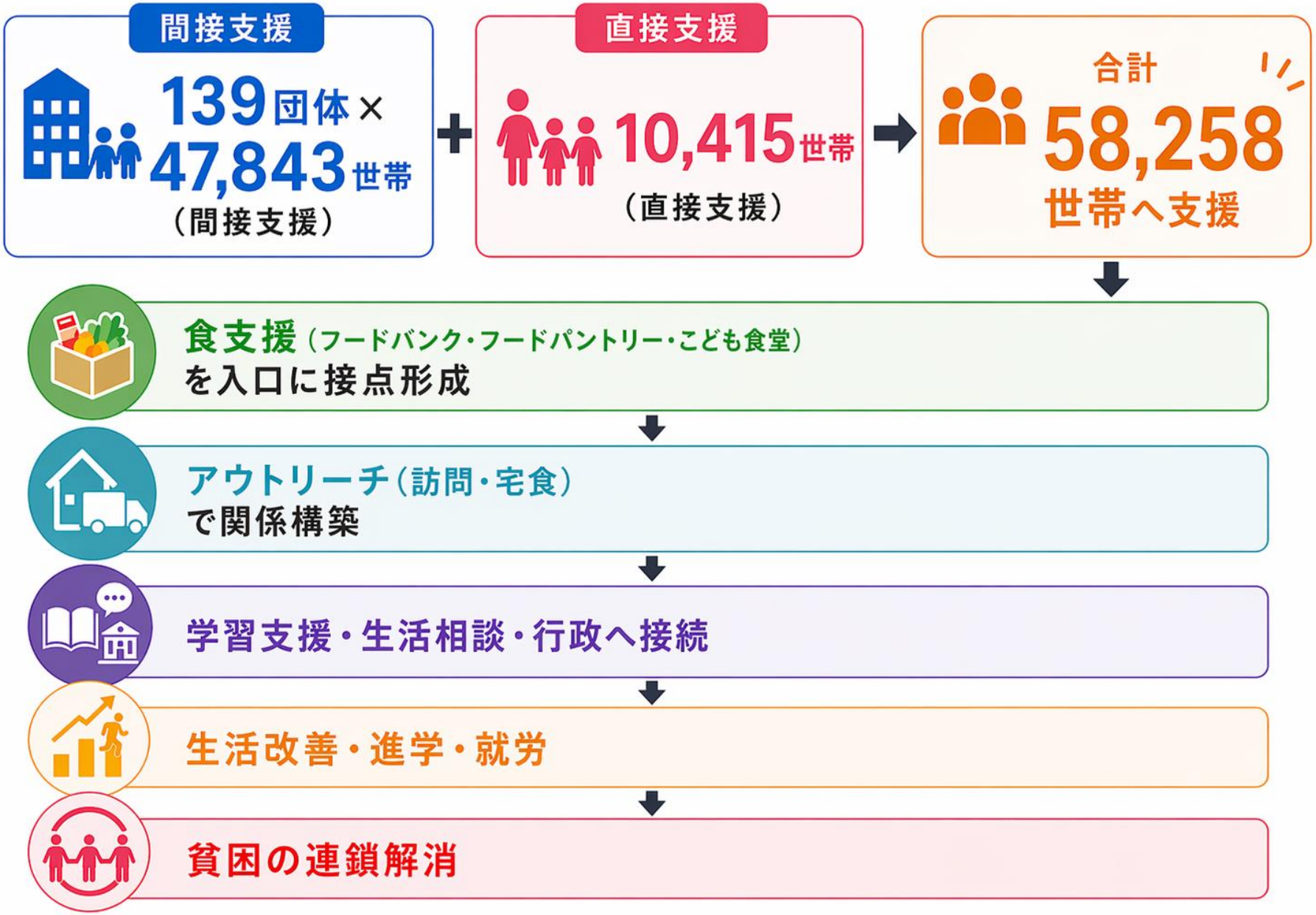
NPO法人いるかの支援事業は、フードバンク機能を中核とし、139団体への物資提供を通じて延べ47,843世帯に間接支援を行うとともに、フードパントリーや緊急支援宅食等により延べ10,415世帯へ直接支援を実施している。

これにより、年間延べ58,258世帯に対して食支援を提供し、支援回数は1,312回にのぼる。

行政・福祉サービスと包括的支援モデル

食支援を入口として困窮家庭との接点を創出し、アウトリーチにより信頼関係を構築することで、生活課題の把握と行政・福祉サービスへの接続を実現している。

さらに、学習支援や居場所支援と組み合わせることで、子どもの成長と家庭の安定を支え、貧困の連鎖解消に向けた包括的支援モデルを構築している。


間接支援
139団体×
47,843世帯
（間接支援）
直接支援
10,415世帯
（直接支援）
合計
58,258
世帯へ支援
食支援（フードバンク・フードパントリー・こども食堂）
を入口に接点形成
アウトリーチ（訪問・宅食）
で関係構築
学習支援・生活相談・行政へ接続
生活改善・進学・就労
貧困の連鎖解消

2025年度実績

食糧支援
58,258
世帯
子育て延べ世帯数
学習支援
5,887
人
子どもの延べ人数
アウトリーチ
7,651
人
子どもの延べ人数

ご寄付先の流れ

多くの企業様、団体様、個人の方から寄付を頂 き、社会福祉協議会や行政機関等の公共機関を 通じて、物資を必要とされている方に配布。
ま た、九州の各子ども食堂等への物資の提供、運 営サポートも実施

企業様、団体様、
個人の方

フードバンク いるか

NPO法人 いるか

学校、保育

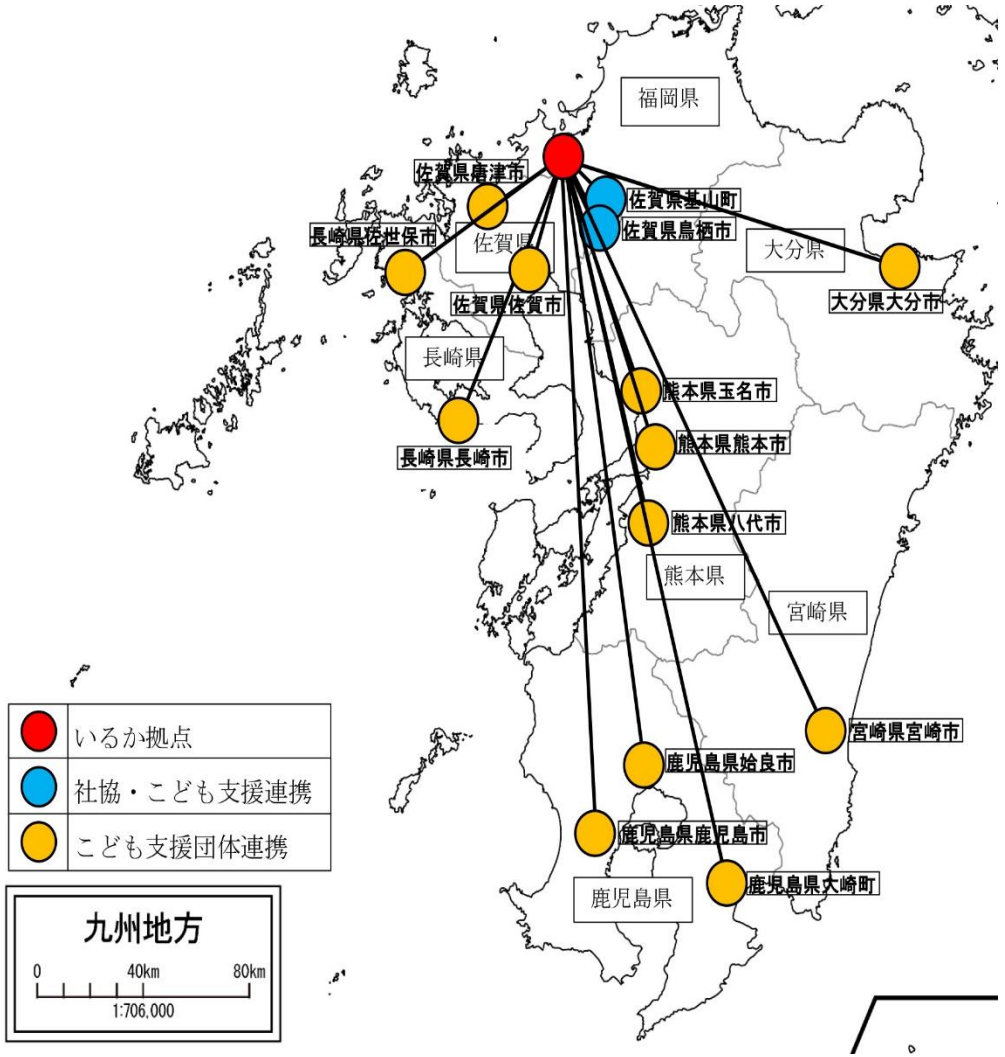
福祉施設

災害支援

行政、
社会福祉協議会

基幹相談支援センター、
包括支援センター

九州圏域（福岡県除く）連携・支援マップ



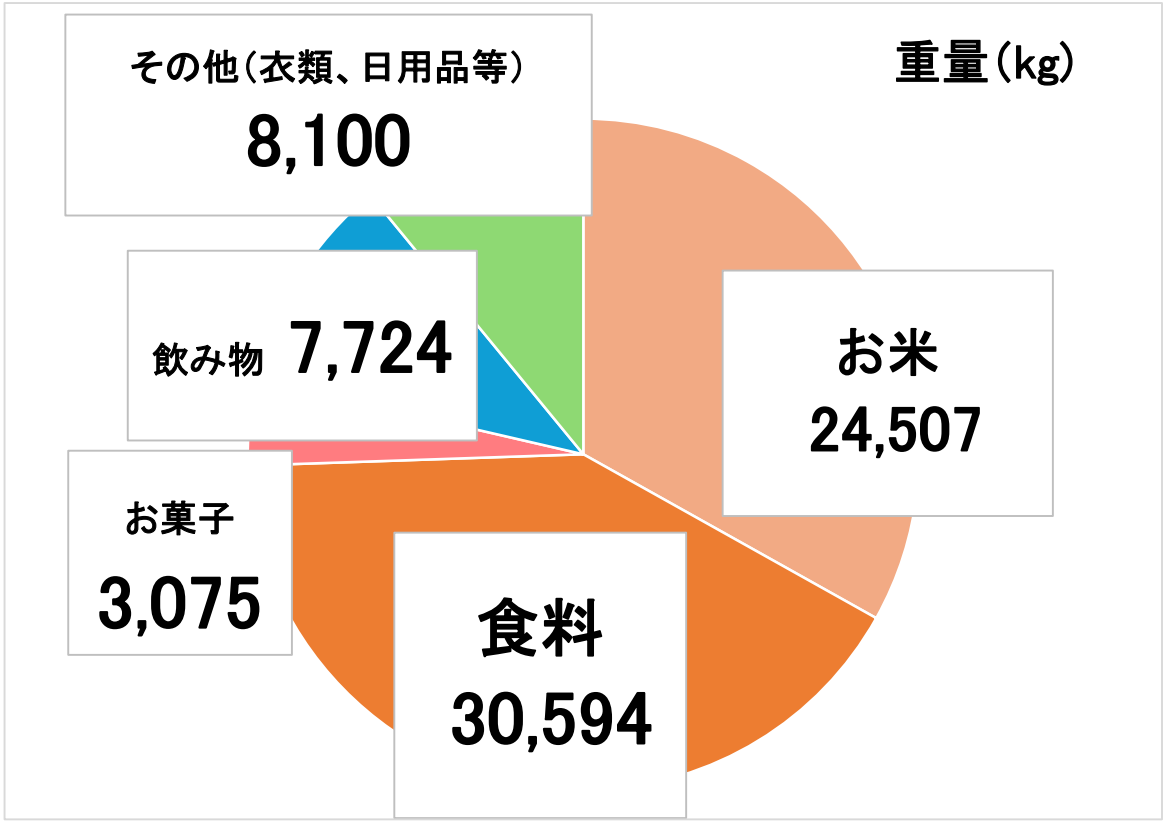
ご寄付先

○実支援団体数　139 団体

○内訳・・こども支援団体（こども食堂・居場所）　91団体、
　　行政・社会福祉協議会　31団体
　　社会福祉施設　15団体
　　災害支援　2団体

○支援地域・・福岡市　・飯塚市　・小郡市　・中間市　・うきは市　・大牟田市　・筑後市　・八女市
　　・大川市　・大野城市　・筑紫野市　・朝倉市　・古賀市　・福津市　・直方市
　　・春日市　・糸島市　・宮若市　・那珂川市　・大刀洗町　・糟屋郡粕屋町
　　・糟屋郡篠栗町　・鞍手郡鞍手町　・佐賀県鳥栖市　・佐賀県唐津市　・佐賀県基山町
　　・佐賀県佐賀市　・鹿児島県姶良市　・宮崎県宮崎市　・長崎県長崎市　・熊本県玉名市
　　・熊本県八代市・熊本県熊本市

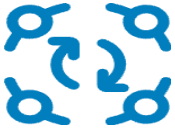
フードバンク　74t



種類別ご寄贈詳細

種類	重量(kg)	個数
お米	24,507	
食料	30,594	99,387
お菓子	3,075	80,737
飲み物	7,724	20,518
その他(衣類、日用品等)	8,100	
合計	74,000	200,642

直接支援の多様な配布チャネル



フードパントリー

公民館等での予約制配布で混雑を避けて提供

子ども食堂

地域の子育て世帯への継続的な食事支援

学習支援時の食品提供

対面またはオンラインで講師と1対1で学習

アウトリーチ、緊急宅食

困窮世帯への直接配送で確実に支援を届けます

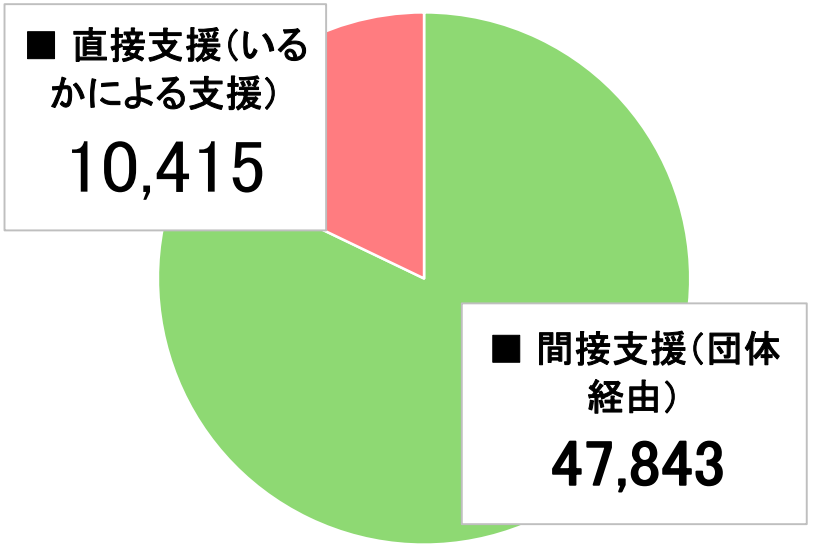
支援実績

■ 直接支援（いるかによる支援）
延べ支援世帯数：10,415世帯　延べ支援回数：819回
・こども食堂・居場所：4,161世帯　　・フードパントリー：3,046世帯
・緊急宅食支援（ウクライナ避難者含む）：1,166世帯
・学習支援時の食品提供：2,042世帯

■ 間接支援（団体経由）
延べ支援世帯数：47,843世帯　延べ支援回数：493回

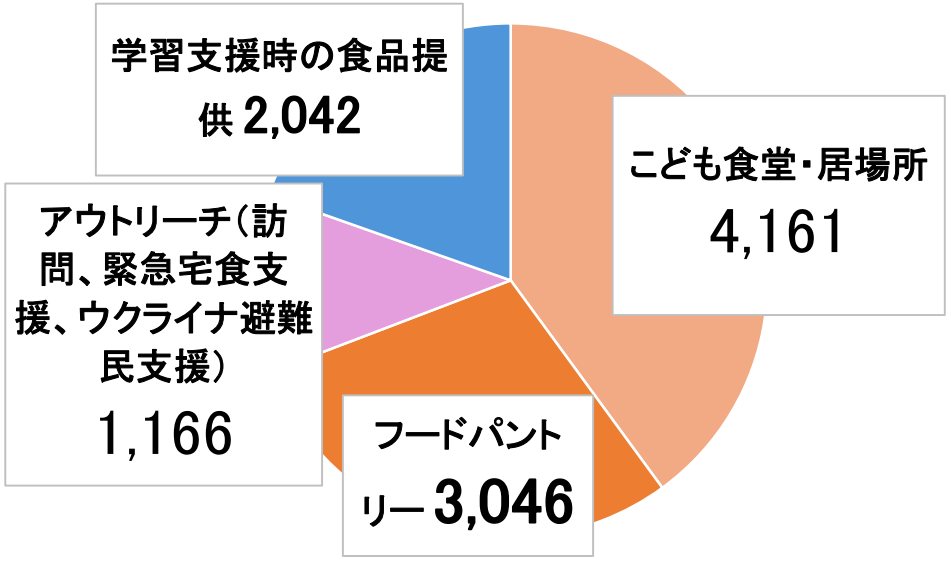
いるか直接・間接支援実績

合計58,258世帯



直接支援詳細

合計10,415世帯



フードバンク事業　直接支援と他団体／行政への間接支援

■① 事業の目的（Why）

1 食を通じた生活のセーフティネット構築

- 生活困窮世帯に対し、食料を安定的に届ける仕組みをつくる
- 緊急時にも対応できる即応性の高い支援体制の構築

2 支援を“必要な人へ確実に届ける”

フードバンク（物流）×パントリー（直接配布）×
アウトリーチ（訪問・宅食）を組み合わせ
☛ 多様な手段で取りこぼしを防ぐ

3 地域全体で支える仕組みづくり（中間支援機能）

- こども食堂・居場所・福祉施設・行政・社協へ物資提供
- 支援ノウハウ・物資・ネットワークを共有し
  ☛ 地域の支援力を底上げする

4 食品ロス削減と社会資源の循環

企業・個人からの寄贈品を活用し
☛「余剰」→「必要な人へ」つなぐ社会的仕組み

■ ② 効果・成果（Impact）

1 食の安定供給の実現

・必要に応じて継続的な食料提供
・緊急時にも迅速に対応可能

☛「食べられる安心」の確保

2 支援の網の拡大（アウトリーチ効果）

・フードパントリー・宅食を通じて
・新規支援対象の発見
・孤立世帯への接触

☛ 見えない困窮の可視化

3 地域支援力の向上（中間支援の成果）

・多数の支援団体への物資提供
・行政・社協との連携強化

☛「1団体→地域全体」へ支援拡大

4 支援の多層化・連携強化

食支援を入口に
・学習支援
・相談支援　などへ接続

☛ 包括・重層支援のハブ機能

5 家庭の生活改善

・子どもの栄養状態の改善
・家庭の精神的余裕の創出

6 信頼関係の構築

・定期的な支援による関係性形成
・支援への抵抗感の低下

7 食品ロス削減・社会価値の創出

企業寄贈品の有効活用

必要な人へ届ける

環境・社会課題の同時解決

活動風景

ご寄付

カルビー株式会社様

トヨタ自動車九州(株)様

NTT西日本株式会社様

フードパントリー

多々良公民館　　飯塚市二瀬交流センター

・地下鉄沿線３３ヶ所居場所

子ども食堂

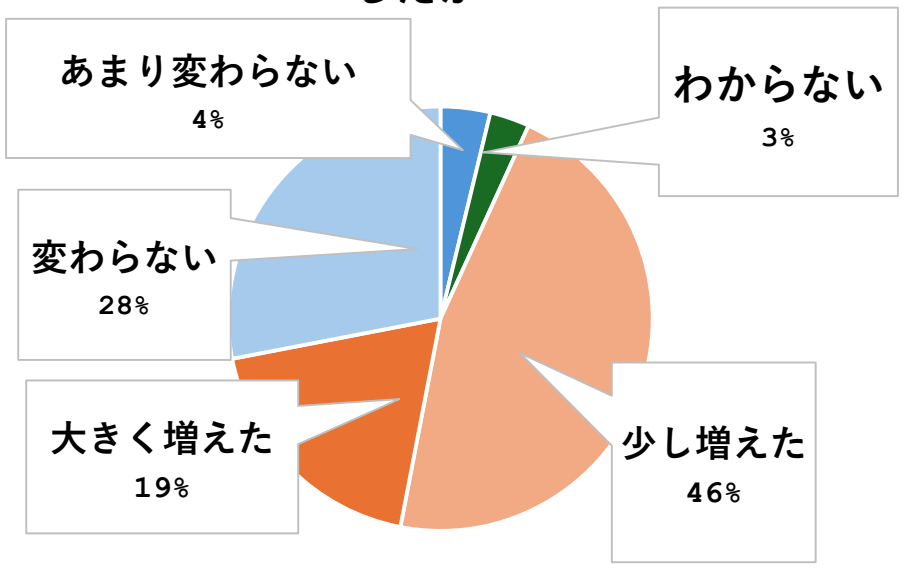
下山門

赤坂

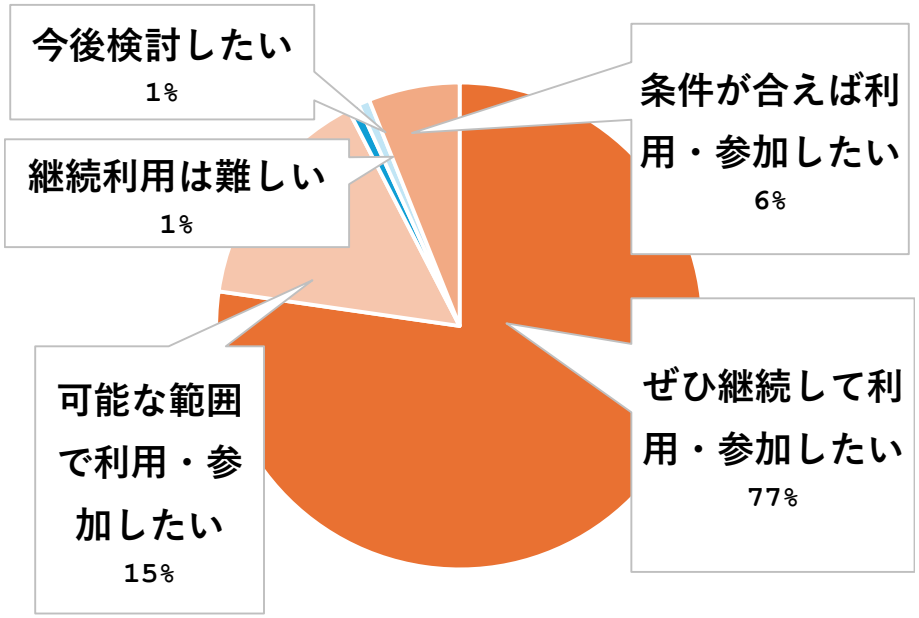
クリスマスケーキ、ハロウィンイベント

食糧支援　アンケート

食支援をきっかけに、親子の会話やコミュニケーション量に変化はありましたか



このような支援の場があれば、今後も利用したいと思いますか。



【食糧支援を受けた方たちからの声】

- 食費の負担が軽減され、家計に少し余裕ができました
  特に「お米」「お弁当」「日常的な食品」の支援が大きな助けになっています
- 子どもがしっかり食事をとれるようになりました
- 普段買えない食品やお菓子をいただき、子どもが喜んでいます
- 支援を通じて「つながり」や「支えられている実感」が得られています
- クリスマスケーキなどの特別な体験が思い出になっています
- 食べ物への感謝の気持ちが育まれています
- 親子の会話が増えて、子どもが自分で食事を準備する機会が増えました

■ 全体傾向

◎生活維持・食費軽減への効果が大きい

◎子どもの食生活・心理面にも好影響

◎「つながり・居場所」としての価値

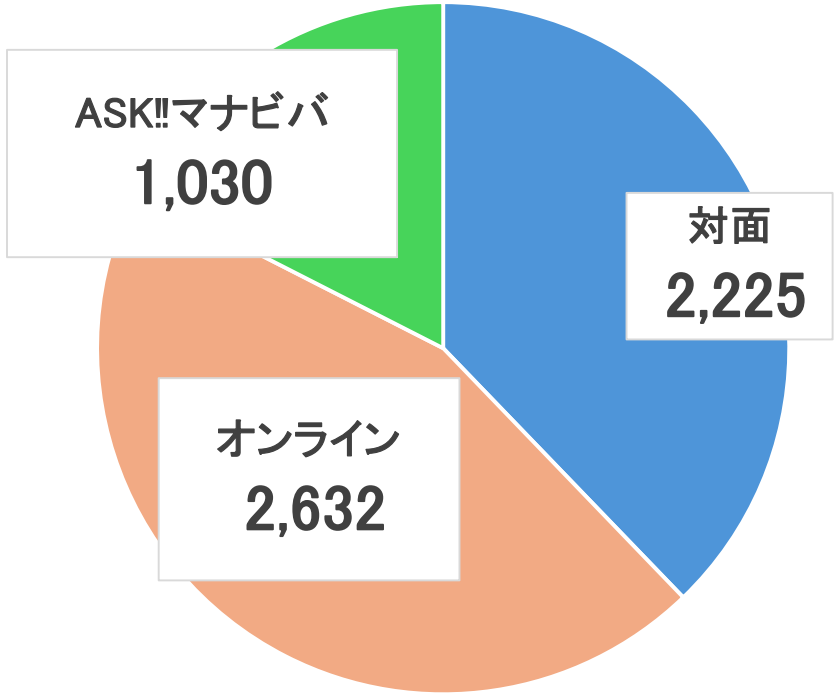
一方で
→ **アクセス（支援する場所・時間・回数）にはまだ課題がある**

対面授業とオンライン授業活動

学校の宿題など、生徒自身が学習したいものを選び、
対面またはオンラインで講師と1対1で 学習を行う

Ask!!マナビバ

LINEを使った質問サポートシステム 24時間
いつでも先生に質問が可



対面授業

2,225名	419回

1城南区ひだまり　2早良区YOKAYOKA
3さいとぴあ　4南市民センター　5百道寮
6博多市民市民センター 7城南市民センター
8西市民センター　9なみきスクエア

オンライン授業活動

2,632名	907回

1福岡市下山門　2福岡市下山門11区
3自宅参加
4佐賀県　5熊本県　6茨城県
7須恵町　8糟屋町　9上西郷　10飯塚市

Askマナビバ

1,030名	質問対応チャット数　9002

ボランティア参加 実績
■マナビバ：対面・オンライン
（ボランティア参加のべ数）

総合計	のべ3,538名

学習支援事業（対面・オンライン・居場所支援）

■ ① 事業の目的（Why）

1 学習機会の格差を埋める

- 経済的理由や家庭環境により、十分な学習機会を得られない子どもへの支援
- 学習の遅れや意欲低下を防ぎ、学び直し・学習習慣の定着を支える

2 子どもの自己肯定感と将来意識の形成

- 家族・学校以外の大人と関わることで
  - ✓ 視野を広げる
  - ✓ 将来の夢・進学目標を持つ
- 「どうせ無理」という状態から
  - 👉「やってみよう」へ転換

3 貧困の連鎖を断ち切る

- 教育機会の確保を通じて

学力の向上 ➡ 進学 ➡ 自立 につなげる

👉 最終目的
「貧困の連鎖を断ち切り、自分の力で生きていく力を育てる支援」

4 生活支援との一体化

- 学習支援をきっかけとして

生活相談 ➡ 食糧支援（こども食堂・フードバントリー） へつなぐ

👉「食糧支援は“入口”
学習支援は“未来を変える支援”」

■ ② 効果・成果（Impact）

1 学習機会の確保・学力向上

- 定期的な学習機会の提供
- 学習習慣の定着
- 苦手意識の軽減

2 学習意欲の回復

- 「できる」「わかる」体験の蓄積
- 受験・進学への前向きな変化

➡「あきらめ → 挑戦」への転換

3 自己肯定感の向上

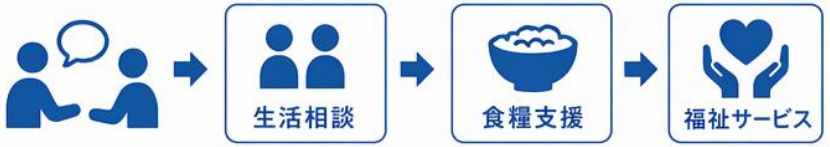
- 大人との関わりによる承認
- 居場所としての安心感

4 将来意識の形成

- 進学目標の明確化
- 職業観・将来像の形成

5 相談・支援への接続

学習支援をきっかけに



へつながる

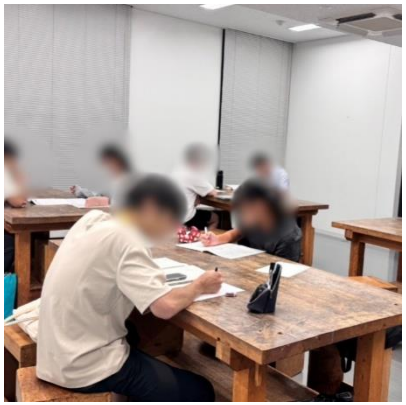
6 家庭全体への波及効果

- 保護者との関係構築
- 家庭状況の把握
- 必要な支援への導線形成（食糧支援、奨学金情報）

7 居場所機能の確立

- 学校でも家庭でもない第三の居場所
- 孤立の防止
- 安心して過ごせる環境

活動風景



南市民センター

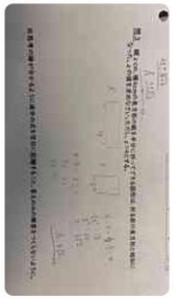
さいとぴあ

城南市民センター

博多市民センター

なみきスクエア

石川マナビバ



11:15

ダウンロード

この問題がわからないです。解説お願いします🤷‍♀️
もし書いてる答えがあってる場合でもなんでこうなってるかがわからないです💦

11:16

ご質問ありがとうございます。

ボランティアの先生には、解説を考えていただくので解説が投稿されますまで、申し訳ないのですがお待ちください。

既読
20:19

お待たせしました。解説します。

Ask!!マナビバ

【学習支援を受けた方たちからの声】

- 支援のおかげで志望校に合格できました
- 勉強時間が増え成績も上がりました
- わからないところをわかるようになるまで教えてもらえることが嬉しいです
- 優しく丁寧に接してもらえるので安心して学べました
- 学校以外の安心できる居場所ができました
- 楽しく通えています。こどもの笑顔が増えました
- 受験で高得点が取れ自信につながりました

■ 全体傾向

◎学習習慣の定着・成績向上への効果が大きい

◎受験対策として合格・進路実現に寄与

◎「安心して学べる居場所」としての価値

◎指導者との関係性が学習意欲向上に影響

マナビバでの変化・良かったこと

1. 毎週マナビバに行くのを楽しみにしています

2. 家族ではない方に優しく、勉強を教えてもらえるので楽しくなったようです。

3. マナビバに行く日は勉強する日という意識がつきました。

4. できることが増え自信に繋がっています

5. マナビバに行けば分からない学習内容でも先生に教えていただき理解できるという安心感が出てきたように感じます。

6. 最近、マナビバに行って勉強したいとなってきて嬉しく感じています

7. 少しずつ勉強への意欲が上がってきた

8. 自分の気持ちを人に話せるようになった

9. 学校で理解できないところを先生とじっくり解くことで理解出来るようになりテストでも解けるようになった

10. マナビバで教えてもらう学習を自分で見つけるようになった。

11. 問題に対して分からないで放置せず対峙する様になった気がする

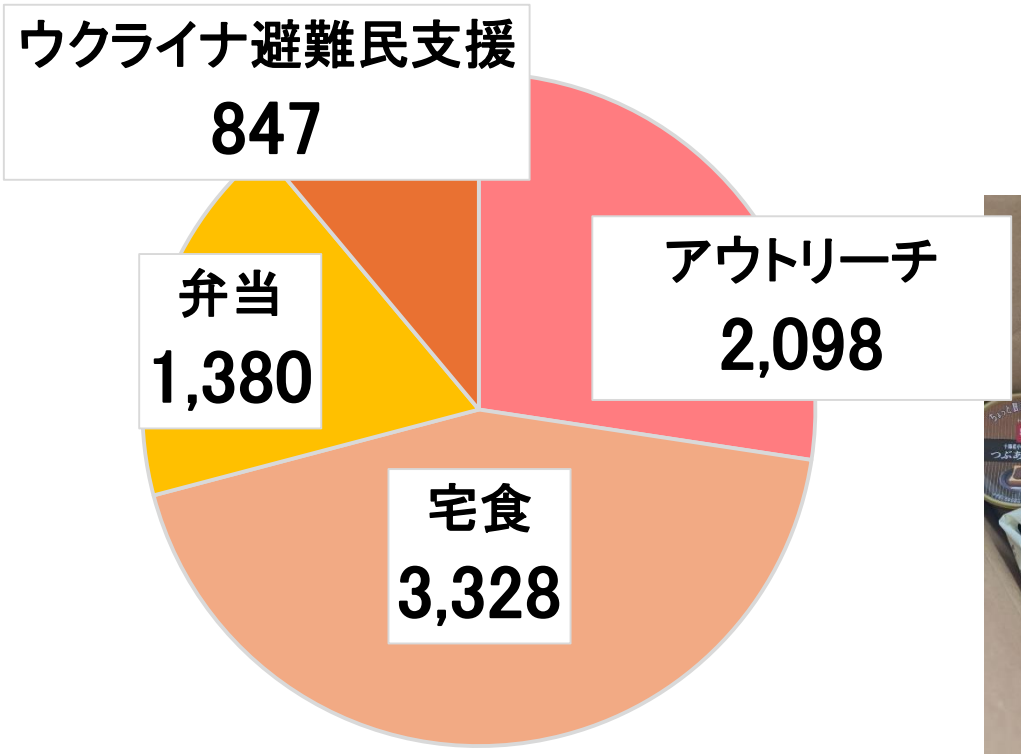
12. 行きたい高校がでてきて、そこに向かう姿勢が感じられる様になった

13. マナビバさんで学ぶ内容を前の日までに決めることを約束し、実行できるようになってきました。

14. 自宅でも習慣的に学習できるようになってきました

15. マナビバに通うことでたくさんの良い変化が生まれています！

【アウトリーチ・ウクライナ避難民支援事業】



合計 7,651人

アウトリーチ（養育支援・宅食）事業

■ ① 事業の目的（Why）

1 アウトリーチ
（早期発見・関係構築）

- 外から見えにくい困窮・養育課題を早期に発見
- 自ら助けを求められない家庭に対し、支援の入口をつくる
- 食料提供や訪問をきっかけに信頼関係を構築し、継続支援につなげる

2 宅食・食糧支援
（生活基盤の確保）

- 食の確保により生活の安定・安心感を確保
- 家計負担の軽減を通じて生活破綻・虐待リスクを予防
- 支援機関との接点を生み、福祉・就労・医療につなぐ導線を作る

☛ 実態として「食糧支援＝関係構築の入口」として機能

3 外国ルーツ・避難民支援
（社会的孤立の防止）

- 言語・文化・就労の壁により孤立しやすい方々に対し
- 生活基盤の維持
- 地域との接点づくり
- 短期支援ではなく長期的な生活支援の補完

4 支援の一体化・導線づくり

- 食料支援を入口に、必要な支援へスムーズにつなぐ
- 孤立の予防・早期支援・再孤立の防止を目指す

■ ② 効果・成果（Impact）

1 関係構築

- 信頼関係の向上
- 「会えるようになる」
  →「話せる」→「相談できる」

👉 効果的な支援導線
食料支援 → 接触 → 信頼 →
相談 → 支援につながる

2 支援受入れの変化

- 支援への抵抗感の低下
- 訪問受入れ・関係継続が
  可能に

3 生活の安定・安心感

- 安心感の向上
- 食の確保により
- 精神的余裕の創出

4 支援への接続
（本質的効果）

- 相談・SOSにつながる
- 行政の制度利用へ接続

👉 「支援につながること」が
最大の成果

5 子どもへの直接的影響

- 食生活の改善
- 登校・生活改善などの変化
- 家庭内関係の改善

6 支援の多層化

アウトリーチを起点に以下へ展開：

- 家庭訪問・見守り
- 面談・相談支援
- 関係機関連携
- 福祉サービス接続

7 避難民支援の成果

- 就労につながったケース
- 生活基盤の維持
- 継続支援による生活安定

【アウトリーチ支援者からの声】

多子世帯で生活に余裕がなく、進学を諦めかけていた子どもに対し、食糧支援を実施。
生活の安定とともに気持ちにも余裕が生まれ、受験に前向きに取り組む姿勢が見られるようになった。

家庭状況が把握しづらい世帯に対し、食糧支援を活用して訪問。
子どもが家事を担っている状況など実態把握につながり、継続的な支援の必要性を確認できた。

食糧支援をきっかけに、保護者の支援への抵抗感が軽減。
困りごとがあった際に自発的に相談が寄せられるようになり、早期対応が可能となった。

支援の継続により関係性が深まり、経済面など踏み込んだ相談が可能に。
表面的な課題だけでなく、本質的な問題にも向き合えるようになった。

■ 全体傾向

◎支援受入れの改善により、継続的な関わりが可能に

◎生活の安定・安心感の向上により、精神的余裕が生まれている

◎子どもの生活改善（食生活・登校・家庭環境）への効果

◎訪問・相談・関係機関連携など支援の多層化が進展